

ヘルスツーリズム研究会 講演内容まとめ

— 特定非営利活動法人日本ヘルスツーリズム振興機構 —

(発表日 第7回研究会 2006年11月15日)

1. 講演タイトル: 伊豆市の健康観光への取り組みについて

2. 所属機関および発表者名: 伊豆市観光商工課ウエルネスセンター 主任 井上貴宏

3. 講演概要 ※記述はフォントサイズ (MS P明朝・11サイズ/50文字×30行以内、「である」調) でお願ひします。

伊豆市は、首都圏から近く、温暖な気候、豊かな自然と温泉資源に恵まれ、森林浴や海水浴、ウォーキングなど保養や健康づくりの場として最適な地域である。また、リハビリテーションなどに温泉を活用している医療機関が立地されているほか、市営温泉入浴施設「天城温泉会館」などを拠点に温泉療法の先駆的な取り組みも行われている。

■ウエルネス産業振興の方向性

保健・医療、福祉、スポーツ振興などの枠組みを超えて、ウエルネスの視点から生涯を通じた健康・体力づくりを支援する取組みを体系化する。また、ウエルネスの視点を導入することで、既存の観光、宿泊施設や日帰り温泉施設に新しい魅力を付与するとともに、グリーンツーリズムなどの体験プログラム等とネットワーク化する仕組みを開発し、地域全体での競争力強化を目指している。

■ウエルネスセンターの役割

新しい湯治場づくりの基盤となるウエルネス産業を振興する中核組織として設置されたのが、伊豆市ウエルネスセンターである。同センターが核となり、伊豆市独自の健康プログラム、サービスを「新しい湯治」という視点から「TO-JI」ツアーとして編集し、時代のニーズにマッチした健康保養や新しい余暇の過ごし方を提案している。現在は行政が事務局を務めているが、事業が軌道に乗った段階で民間組織に移管する予定である。主な業務として、健康保養「TO-JI」ツアーの企画、販売促進、PR活動、ウエルネスプログラムの問合せ・予約を受け付ける事務局機能、市民に対する温泉を活用した健康づくり事業の実施、ウエルネスサービス関連人材の育成・活用などを推進している。

■伊豆市まるごとTO-JI博覧会

「10月2日は湯治の日」をキャッチフレーズに、伊豆市では10月にPRイベントを開催している。イベントの目的は、イベント開催により誘客を図ること、「健康保養地伊豆市」を広くPRすること、健康サービスを新産業として育成すること、案内人の実務体験の場として活用すること、市民の理解醸成を図ることとしている。イベントの内容は、通年体験可能なプログラムを基本に、セラピー&リラクゼーション・健康リフレッシュ・手作り工房・歴史・文化探索・自然ふれあい体験など、伊豆市内で体験可能なサービス、プログラムを周遊ツアーや体験型イベントとしてメニュー化し、期間限定で集中実施するものである。平成17年、18年と開催してきたが、期間中の参加者は全体で8,065名(前年比90%増)、宿泊客数69,470名(前年比3%増)、ホームページアクセス数10,000件、メディア露出広告換算費2650万円の成果が出ている。人気プログラムとしては、「天城流湯治法」体験ツアー、修禅寺で朝の太極拳、天城散策ノルディックウォーキング、奥の院秋の静寂、天城山ハイキング(3種)、わさび漬作り体験などがあげられる。ただし、イベントを目的に宿泊する人がまだまだ少ないとか、どこで何をやっているのか核となる施設がないとか、イベント内容を紹介する案内所が温泉街の中心に欲しい、一部の旅館しか参加できていない、旅館の従業員がイベントを知らない、健康食の体験プログラムが少ないなどの反省点があがっており、次回からのイベント運営に反映していきたい。



※参考図表・写真等はこの枠内に貼り付けてくださいますようお願いいたします。